

た親しく自分にも語つて聞かせられたことがある。北方亞細亞に廣く分布して居る一般遊牧民の状態も、大體に於ては之と大差ないと考へるから、その大略を述べて此の方面に於る全般の觀察を資けて見よう。

キルギス遊牧民の形作れる社會的集團の基本に成るものは勿論家族である。家族關係が二等親以下に移つて來ると、彼等の間柄は共同の財産を中心にして互ひに親密に結び付けられ、疎遠なる血族のもの、また時としては他の全く孤立した貧しい家族も此の間に加はつて來て、こゝに最小の社會的團體なるアウルといふものを形成する。此のアウルに屬する人々は常に一緒に住むで居つて、決して年内の或る期間だけ一緒に居るといふやうな譯ではない。多數の畜群を持つて居る家族になると、その畜類に損害を生ぜずして一緒に住所を變へることは不可能であるから、家族の人々は各々その畜類を分けて別々になり（此の際年長の子から順次外に別れて、末子は家長なる父と一緒に止るのが常である）、そうして從屬として引き入れた貧民等と共に一ツづつのアウルを作る。富裕な人はかかる種類のアウルを多數に持つて居る。各アウルは夏の間は別々に遊牧して居るが、冬になると一つの冬居に集合して來る。これは冬期に於ては畜群が各アウルから引き上げて來るので、從つてその監視の爲に多くの人を要するにも因るし、また一方からいへば此の悪い冬の季節を困苦缺乏の間に過す爲には、別々になつて居るよりも一つに集つた方が凌ぎ易いからである。斯様にしてキルギス族の同姓のものが冬は一處に集り、夏は別れて四方に散ずるのであるが、その散じた時にも各アウルの間には親しい一種の感情が流れて居つて、もしも一ツのアウルが外敵から襲はれる如きことがあらば、相隣れるものは共同の敵として一致して逐ひ拂ふことが出来るのである。